

2022年10月13日

2021年度のスチール缶リサイクル率は93.1%

- 90%以上の達成は11年連続となりました。
- 2021年度から始まり2025年度を目標年度とする自主行動計画2025（第4次自主行動計画）のリサイクルの数値目標「93%以上維持」を達成しています。

● 国内での資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル

- 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、96%以上の自治体で分別収集の対象になっています。
- スチール缶スクラップは、ティンフリー・スチール化の進展等により高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
- 国内で発生するスチール缶スクラップは、国内で製鉄原料として再資源化されており、輸出に回っているものは基本的にありません。

● 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル

- スチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッター処理され、スチール缶スクラップ（Cプレス・Cシュレッター）以外の規格で鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009年度より、この一部を調査して再資源化重量に加えています。

● 世界の粗鋼生産は、6年連続で過去最高を記録。鉄スクラップも貴重な原料

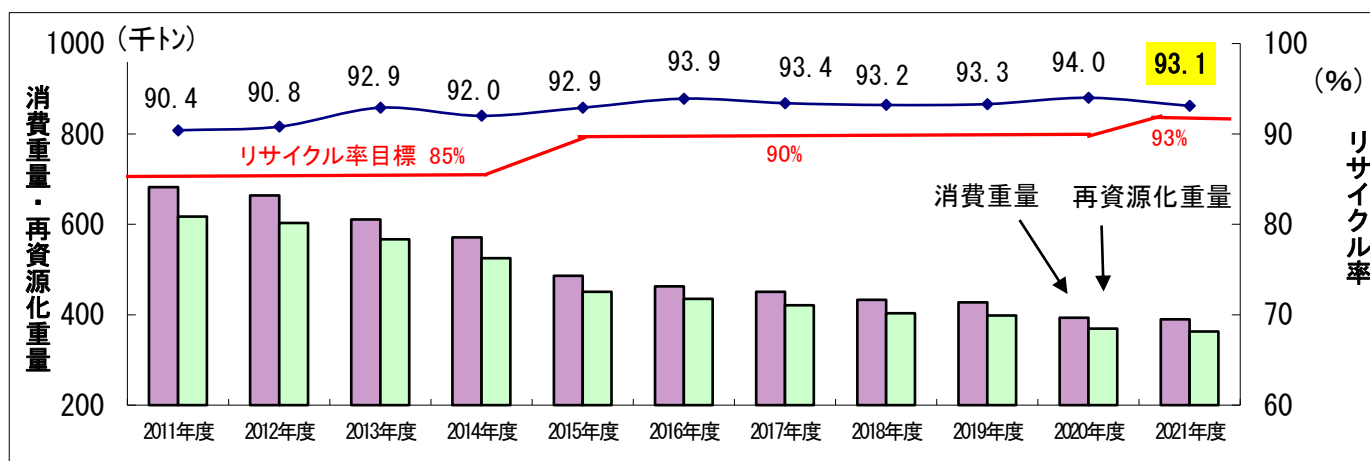
- 2021年の世界経済成長率はプラス6.1%と回復し、この経済成長によって増加した鋼材需要に対応し、世界の粗鋼生産量は2020年の約18億8千万トンから2021年は約19億5千万トンへ3.8%増加。結果的に6年連続で過去最高の生産量を更新しました。
- この傾向は2022年に入ってからも続きましたが、ロシアのウクライナへの侵攻後、資源高やこれに伴う物価高などにより世界経済が減速、鋼材需要が減少し、各国で粗鋼生産量が対前年マイナスとなっています。
- このような動きの中でも、品質が安定し成分が明確なスチール缶スクラップは、日本では製鋼原料として高く評価され、安定した取引が行われています。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当：事務局 外菌
電話：03-5550-9431 FAX：03-5550-9435
E-mail アドレス：recycle@steelcan.jp

2021年度のスチール缶リサイクル率は93.1%

スチール缶消費重量 389,823 トンに対して再資源化重量 362,846 トンでした。



	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
消費重量(千トン)	682	664	611	571	486	463	451	433	427	393	390
再資源化重量(千トン)	617	603	567	525	451	435	422	403	398	369	363
リサイクル率(%)	90.4	90.8	92.9	92.0	92.9	93.9	93.4	93.2	93.3	94.0	93.1

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで3ヶ月かかると見做して、消費重量は2021年1～12月、回収・再資源化重量は2021年4月～2022年3月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{回収・再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 93.1\%$$

$$\text{消費重量} = \text{空缶出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{回収・再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダー処理後、Cシュレッダー以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却した量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等の異物を除いて算出。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 外蘭
 電話:03-5550-9431 FAX:03-5550-9435
 E-mail アドレス:recycle@steelcan.jp